

平成22年度浮牛城跡発掘調査概要

調査要項

遺跡名 浮牛城(ふぎゅうじょう)跡

所在地 北上市口内町松阪 地内

調査期間 平成22年11月

調査目的 遺構確認調査

調査担当 北上市立埋蔵文化財センター

遺跡の位置

浮牛城跡は、J R 東北本線北上駅から東約8kmに位置します。城跡は、口内川の北岸の低丘陵上に立地して、周辺の沖積面との比高差は20mほどあります。

今回の調査成果

調査箇所

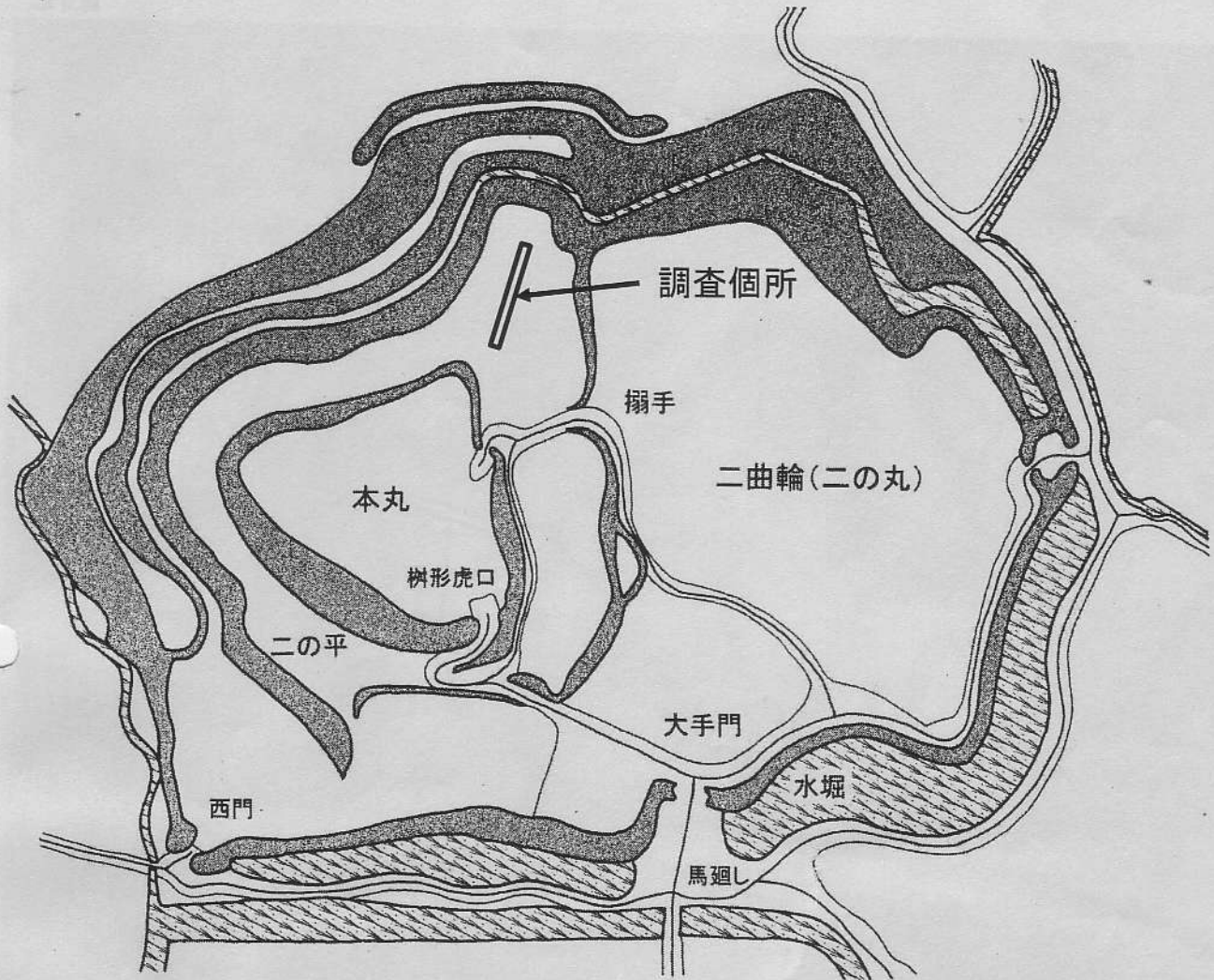
今回の調査は、昨年度に引き続き、本丸下、二の平とも呼ばれる腰曲輪の調査を行いました。調査した部分は、昨年度の調査で確認された二曲輪の搦め手から道の北側にあたります。

この部分は、浮牛城の丘陵を独立するように、北側の丘陵から連なる尾根を切った個所にあたります。そのため、浮牛城と北側丘陵とは比高的に変わらず、浮牛城にとって、防御上もつとも弱いになります。また、絵図面上では、南側を回る水濠の水がここまでは引き入れることはできなかったようで空堀となっており、ますます防御力が弱まっています。そのため、この場所には、急峻な土垣を2重に設け、空堀もかなり深く掘られています。さらに、北から延びる丘陵尾根には、空堀の外側にもう一条、堀切りを設けて、丘陵との切断をはかっています。そして、北側に突出される出柵状に造り、堀もこの個所を折歪とし、より防御能力を高めています。

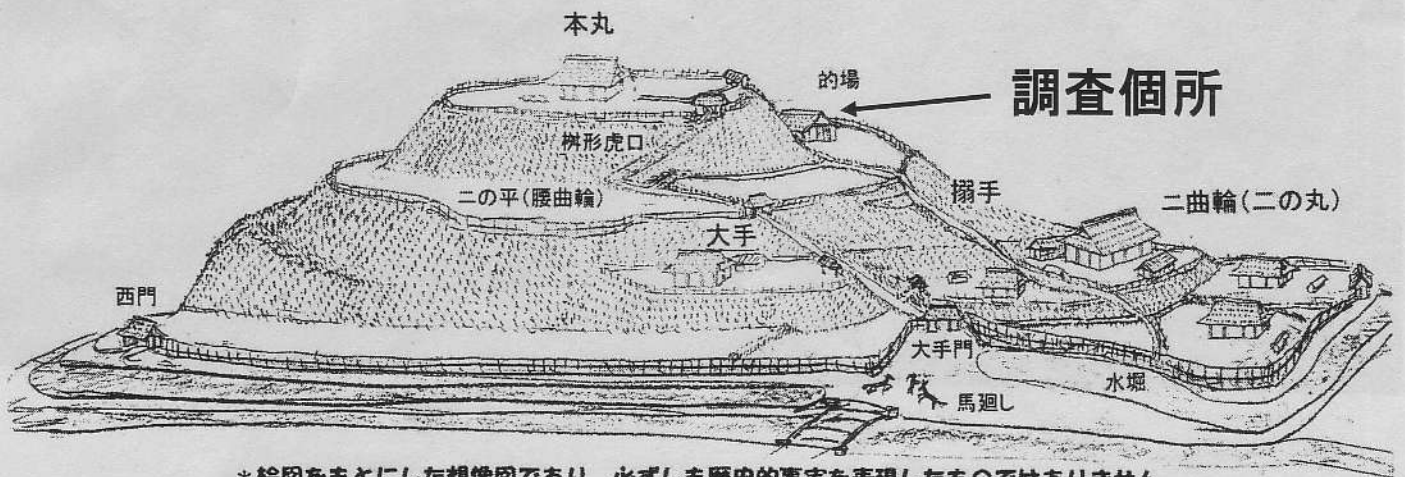
貞享4(1687)年の絵図では、この部分の平地には「家中屋敷」と書かれており、なんらかの建物が存在していたと考えられます。

調査された遺構

北に伸びる平坦面に合わせて、南北に遺構確認のための溝を掘りました。平坦面には、建物を示す柱の土台や、柱穴は確認できず、底面が平らな落ち込み(確認長さ7.4m)を確認しました。家中屋敷と絵図に書かれていながら、平坦面に、建物跡が確認できないのは、土台石の上に柱をのせる建物であったため、後世の削平等のため土台石が無くなってしまったためと考えられます。江戸時代以前であれば、柱穴で柱を立てるため、多少削平されても柱穴が確認できるはずですが、よって、この部分は江戸時代になってから、造られた場所であるといえます。また、見つかった落ち込みは、浅く、北側の堀込みの傾斜が緩やかになっているところから、堀や道のようなものではないと考えられます。底面が平らなことや、家中屋敷と書かれた場所にあることから、屋敷に隣接した、馬屋であったと推定されます。

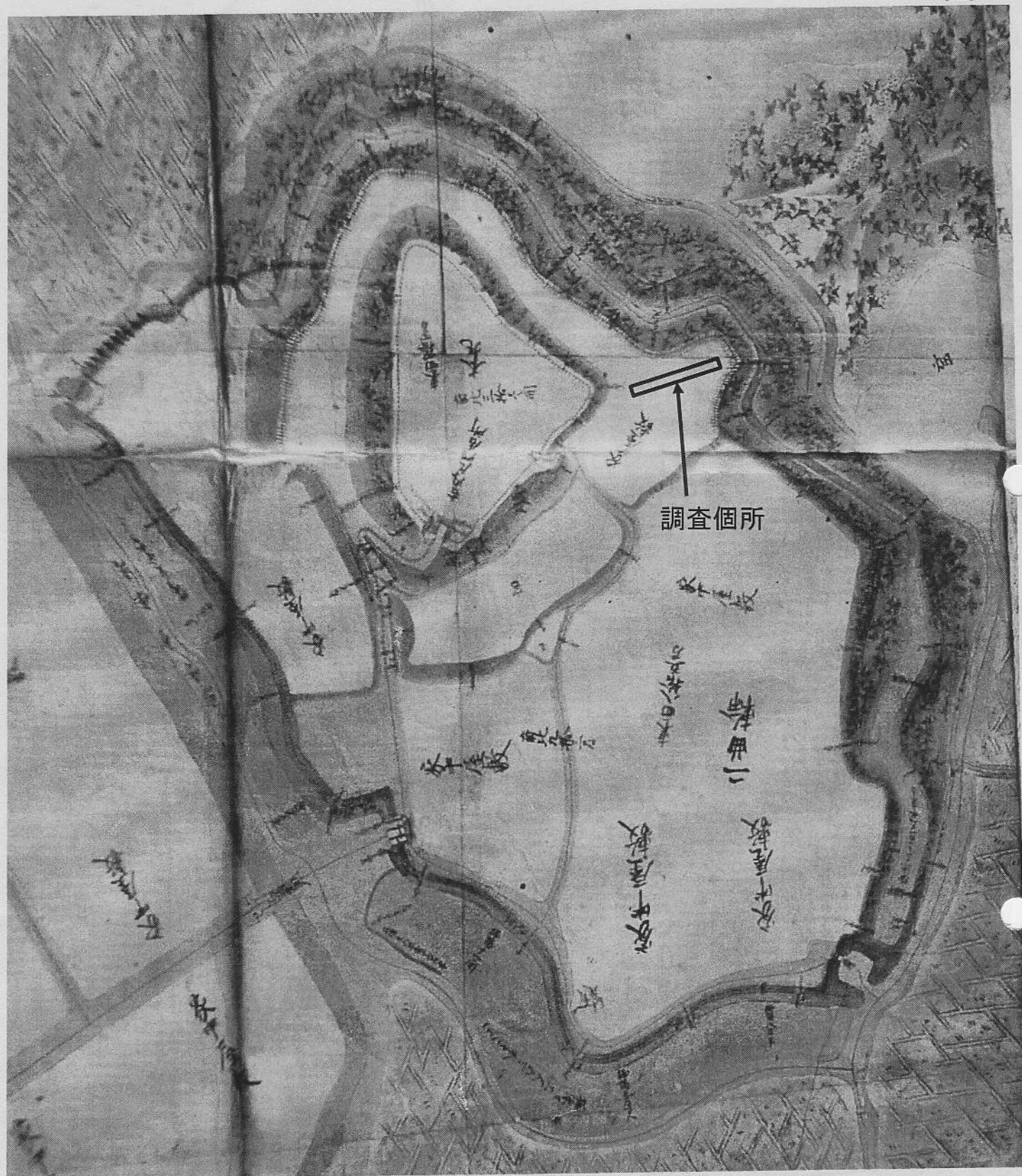


浮牛城の縄張り(江戸時代中期の絵図を再トレース)



* 絵図をもとにした想像図であり、必ずしも歴史的事実を表現したものではありません

浮牛城の縄張り(上)と想像図(下)からみた調査箇所



『江刺郡上口内村館并館下繪図』(貞享4年=1687年)部分
(宮城県立図書館蔵)